

お悩み

4 ヶ月になるラブラドルを飼っています。散歩に出してから帰るまでの間、ずっと引っ張られています。本など読んで、引き綱を引いて戻らせようともしましたが、最近力はどんどん強くなっていて、負けてしまいます。この間は、玄関を出た瞬間、私が転んでしまいました。この先、大きくなるにつれ、不安がいっぱいです。

相談者：主婦（53歳）

愛犬：ラブラドル・レトリバー

年齢：4ヶ月

ドッグライフカウンセラーからのアドバイス

ラブラドルは大変活発な犬種ですし、4ヶ月という時期は、好奇心のかたまりのような時期ですから、色々なことが気になって引っ張るのはごく当然のことなのです。

わんちゃんには、興味のあるものに向かっていくことよりも、飼い主さんの足元を歩くことの方が魅力的であると教えてあげましょう。

わんちゃんの引っ張り癖は、必ずなおります。飼い主さんは心にゆとりを持って、楽しみながらわんちゃんに次の2つのことを教えてあげてください。

①『おいで』②『ついて』

この二つを教える前に、気をつけていただきたいことがあります。『おいで』や『ついて』の練習では、決して叱らないことです。『おいで』と言っても来なかったので叱ったり、引っ張ったときに叱りながらリードを引いたりすると、わんちゃんが飼い主さんの足元を快適ではない場所と考え始め、より飼い主さんから離れていこうとします。

その結果、『おいで』や『ついて』が難しくなってしまうのです。また、叱りながら教えると、わんちゃんにとっても飼い主さんにとっても、散歩が楽しいものではなくなってしまいます。

①『おいで』②『ついて』の動作を教えるときは、決して叱らず、褒めることだけで教えてあげてください。

①『おいで』の教え方

わんちゃんのリードを持ったまま、1m離れます。「おいで」と声をかけましたら、なるべく早くリードをたぐりよせ、十分身体に近づけた位置で褒めます。「おいで」は、いつもの優しい声で呼びかけてあげてください。声をかけてから誉めるまでの時間が短ければ短いほどわんちゃんの覚えは早くなります。遅くとも声をかけてから2秒後には誉めていられるようにしましょう。そのためには、必ずリードをつけて練習してください。『おいで』といえば間違いなく来てくれるようになるまでは、ノーリードでの練習は避けるべきです。この【離れる】→【「おいで」と声をかける】→【すばやくリードを手繰り寄せる】→【褒める】を何度も練習します。徐々に離れる距離を長くしていきましょう。

どんなときも、愛犬を人間側から迎えに行くような動作は控えてください。飼い主さんからわんちゃんに近づいてしまうと、「おいで」は飼い主さんが近づいてくるものだと勘違いして覚えてしまいます。必ず最後の一步まで呼び寄せることを心がけてください。

②『ついて』の教え方

先ほどの『おいで』ができましたら、わんちゃんは飼い主さんの足元を快適な場所と思い始めています。次は『ついて』を教えて、人間の横を並んで歩く練習です。まず、愛犬を横についたら、リードを短く持ったまま「ついて」と言って、一步だけ歩きます。横につけて一步だけ進んだら、すぐによく褒めます。褒め方は先ほどと同じで、優しい落ち着いた声で褒めます。続けてまた「ついて」と声をかけ、一緒に一步進み、褒めます。これができるようになったら、歩数を、二歩、三歩と徐々に増やしていきましょう。他の方向に行こうとしたときは、短く持ったリードを引き寄せて必ず横についてくるようにしてから褒めます。だんだん長い距離をできるようになりますが、最初のうちは10歩に1回くらいは、軽く褒めながら歩いてあげてください。また、わんちゃんが、これでいいのかな？という顔で飼い主さんのほうを見上げるしぐさをしたら、そのときもすかさず軽く褒めてあげてください。

決して、言葉をかける前に力まかせでリードを引っ張ったり、言うことを聞かないからといって怒ったりしないように、気をつけてくださいね。

わんちゃんは愛情に貪欲な動物ですので、いつも飼い主さんに可愛がられていたいと思っています。ですので、いつも褒められたい一心で飼い主さんを見つめ、飼い主さんの喜ぶことをしようとするようになります。諦めずに根気良く『おいで』『ついて』を教えることで、愛犬との心の通った信頼関係も築くことができます。ぜひがんばってくださいね。

注意事項：お悩み相談は、同じような悩みに見えても、個々の飼い主さんの暮らし方や犬との接し方、性格や物の考え方によって、解決策や回避策、またその伝え方が大きく変わって来ます。もちろんこれに加え、犬の性格・犬種・年齢など様々な要素でも内容が変わります。10組の飼い主さんと犬が居たら、10通りのお悩み相談回答が存在しますので、こちらの相談文はその一例に過ぎません。御注意下さい。